

4 言語(仏・露・中・韓)共同プロジェクト —北海道札幌国際情報高等学校におけるオンライン交流例—

武井由紀(名古屋外国語大学)

依田幸子(札幌国際情報高校)

1. はじめに

かねてより、中等教育段階における第二外国語教育を推進するための一方策として、言語横断的プロジェクトの必要性と、生徒の批判的思考や探究的態度に関与し得るような交流プロジェクトの必要性を感じていた。これは、個別言語の活動に留まるのではなく、複数の言語で一つのプロジェクトに取り組むことが、生徒のみならず、教員、組織内でも積極的な効果が生じるのではないかという期待を含んだ推測と、生徒の批判的思考や探究的態度に関与し得るような言語交流を実施することができれば、第二外国語教育が単なる言語学習としてみなされがちな領域を超えて、その重要性を示すことができるのではないかという考えに基づいている。そのようなプロジェクトモデルの開発を科研費(21K00692)で取り組んでおり、これはその一環として実施したプロジェクト事例についての発表である。

2. 概要

今回は、札幌国際情報高校(以下、SIT)において、国語科教員と、SIT で提供されている4言語を担当する第二外国語教員の協力を得て、共通テーマ「私の幸せな人生に大切なもの」の下、4言語(仏・露・中・韓)で実施したオンライン交流について発表する。

具体的な流れとしては、国語科の授業内で生徒たちに「私の幸せな人生に大切なもの」を考えさせ、そこで挙げた語彙を、各自が履修している第二外国語科の授業でも扱い、目標言語で表現できるように準備し、交流相手にも事前に同テーマを伝え、同様に準備してもらった。実際のオンライン交流時には、交流相手と相互に大切なものを伝え合った。交流時、生徒には必ずコメントシートを記すように指示し、交流内容をメモすると同時に、交流直後の感想を残してもらった。約2ヶ月に及んだ4言語(4カ国と)の交流会の後、各言語の交流内容について、気づいたことや考えたことを振り返りながら生徒たちに自由にまとめてもらい、1コマの時間を使って、全員が一堂に会する形で4言語交流の成果発表会を行った。成果発表の最後には全体アンケートを実施し、当プロジェクトの評価とコメントを記述・回答してもらった。

本発表ではこれらの取り組みについての詳細と、交流会直後のコメントシート、全体での成果発表後に取ったアンケート結果に基づく成果を報告する。

3. 今後の課題

一定の成果やオンライン交流の新たな形を見出すことができたものの、各言語で交流を継続的に実施することが可能か、第二外国語の担当教員(非常勤講師)にどこまで協力をお願いできるのか、技術的なトラブルの予防策や対処法の再検討、共同成果発表のあり方と時間の確保、等々が、今後の課題として指摘できる。

以上